

第72回四国地区人権教育研究大会

令和7年7月10日(木)、「四国はひとつ」の合言葉のもと、第72回四国地区人権教育研究大会が開催されました。本研究大会の目的は、これまでの同和教育の成果と手法を大切にしながら、人間の尊厳と人権の確立をめざした研究と実践の交流をとおして、今後の人権教育の在り方と様々な人権問題を解決する実践の道筋を明らかにすることです。同和教育が大切にしてきた「差別の現実から深く学ぶ」という基本原則の下、四国各地の研究と教育実践を持ち寄り、互いの成果に学び合い、参加者一人ひとりの人権意識の高揚につなげることができました。

【全体会】

愛媛県県民文化会館メインホールで開催しました。

参加者数は約2,500人、多くの参加者を得て開催できました。開会行事では、四国地区人権教育研究協議会長、県教育長の挨拶の後、県知事(副知事代読)、県議会議長、松山市長(副市長代読)から祝辞をいただきました。また、基調報告がされた後、企画行事が舞台上で盛大に披露されました。



企画行事は、四国のお遍路文化として、久万高原町川瀬歌舞伎保存会による「川瀬歌舞伎」が演じられました。芸能の伝承だけでなく、背景にある歴史や地域の人の思いを受け継ぎ、伝えていこうとされている熱を感じました。また、愛媛県立内子高等学校郷土芸能部による「五十崎大風出世太鼓」では、自分たちの手で大太鼓を作った先輩たちの気持ちとともに、不公平や争いを平等や平和な社会へと変えてきた地域の思いを受け継いでいこうとする生徒たちの演舞・太鼓演奏が、参加者を魅了しました。



最後に次期開催県である香川県人権・同和教育研究協議会長の挨拶、県教育委員会指導部長が閉会の挨拶を行い、全体会を終えました。

【分科会】

分科会は、10日(木)・11日(金)の2日間にわたって行われ、市内12会場で熱心な協議が繰り上げられました。四国各県からの参加者は、それぞれの分科会場に分かれ、部落差別の解消や様々な人権課題の解決に向けて、協議を深めました。

